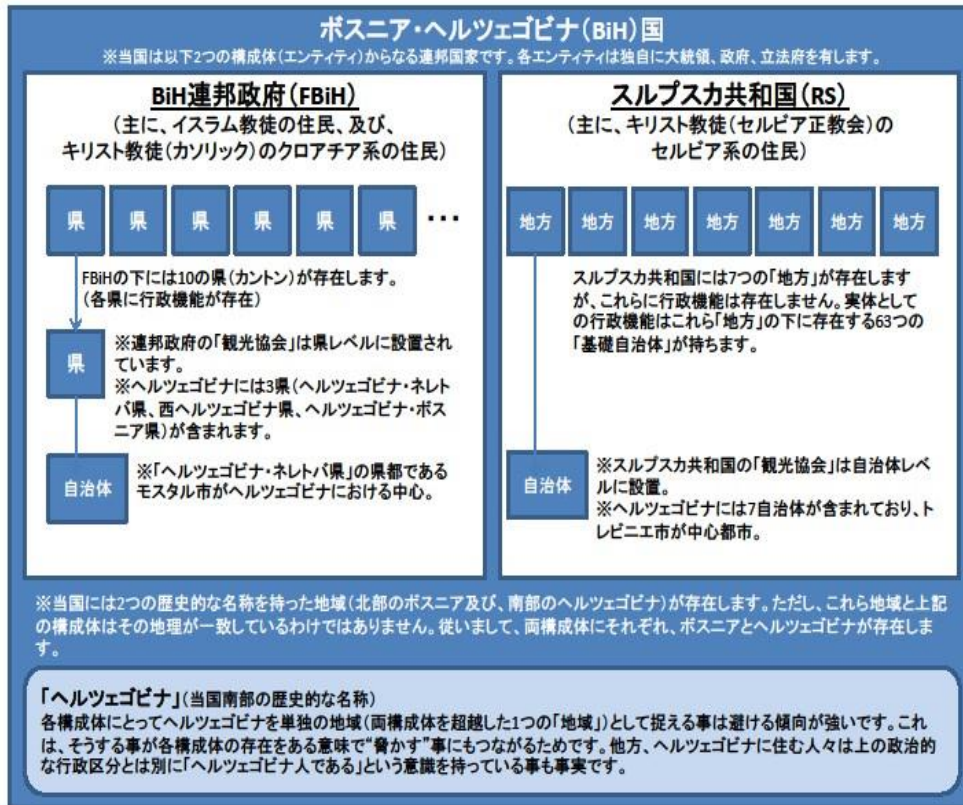


途上国アルバム：様々な垣根を越えて

白石邦広

ボスニア・ヘルツェゴビナ国、元専門家

2013年1月から2015年1月までの2年間、ボスニア・ヘルツェゴビナ国のヘルツェゴビナにおける観光開発に従事しました。着任する前の私もそうでしたが「ボスニア・ヘルツェゴビナ」と聞くと、多くの方々が90年代の紛争イメージを想起されるようです。実際、観光客の多くはそういったイメージを求め、破壊され朽ち果てた建物の写真撮影をして帰ります。しかし、物理的な破壊は20年前に終わっており（もちろん、そこからの復興が経過年数に見合う程に進んでいるとは必ずしも言えませんが）、当然の事ながら現地の人々の生活は過去よりも未来を志向しています。今回は、そのような未来志向の人々の取り組みを紹介したいと思います。



過去よりも未来を志向しています。今回は、そのような未来志向の人々の取り組みを紹介したいと思います。

まず、当地の宗教及び民族構成と政治の関係は複雑です。あまり簡略化して示す事は適切ではないと思いますが、左図にまとめました。このように政治と宗教、民族意識が絡み合う複雑さは2年間現地で仕事をしていても理解する事は容易ではありません。現地の人には「我々自身も理解しきれていないのだから、外国の人間が分かるわけない」と言われます。語弊を恐れずに表現すると“常に3つの異なる政府の顔を立てながら仕事をする”といった感覚でした。

次に、旧ユーゴスラビアは必要なものは何でも自国で作ろうとしていた国です。卵から飛行機まで、色々なものを作ってきた技術・経験があります。従って、ヘルツェゴビナの人々は尊厳だけでなく、それを下支えする知識・経験をしっかり

と持っており、これらは当国の未来に向けた財産である事も実感しました。ただし、他方においてはそのような知識・経験が若者たちの新しい挑戦を阻む結果をもたらしている事も確認できました。

そのような中、ヘルツェゴビナにおける観光を活性化・変革させたい、と考える民間出身の未来志向の有志が「民族」や「宗教」、政治的な境界線（構成体）に捉われること無く集まり、Tourism Cluster Herzegovina (TCH) という組織を立ち上げました。



(写真左) TCH が観光フェアへ出展した際の様子

(写真右) 在ロンドン ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館より Mustafa Mujezinović 大使 (右) も駆けつけてくださいました。

TCH の取り組みに対して、同グループの組織化、組織としての運営能力向上、協会の能力強化等、様々な支援を行いました。地域のホテル、レストラン、旅行業者、ワイナリー、空港、大学等が多数・複数参画しており、今後はヘルツェゴビナにおける観光開発のオピニオン・リーダー的な組織となり、官組織に対して観光業における地域課題への具体的な解決策を提示できるような組織になる事を目指しています。また、今回 TCH が体現した“クラスター”という考え方・取り組みは他分野からも注目されており、新たな展開が期待されています。地域へ新しい経済活性化のモデルを提示できたと言えます。

TCH のような組織を立ち上げるためには、本来であれば有志を発掘するところからスタートしなければなりません。通常、組織の立ち上げまでは最低でも 10 年を要すると言われています。今回はヘルツェゴビナの人々の高い志や様々なタイミングも手伝い、2 年間で多くの

展開が可能となりました。それもこれも現地の人々のヘルツェゴビナに対する強い想いの賜物だと思いますので、最後はヘルツェゴビナの魅力を伝える写真を幾つかお届けしたいと思います。



ヘルツェゴビナはワインの産地



伝統的なチーズ



残される美しい自然



ヘルツェゴビナはタバコの産地



ヘルツェゴビナ人の愛する生ハム



伝統的な衣装

※上段の写真はトレビニエ市在住のスラベンコ氏によるもの。許可を得て掲載しています。

※下段の写真はシロキブリエグ市のカダル社によるもの。許可を得て掲載しています。